

授業科目名： 現代東アジア特論（ロシア） Contemporary East Asia (Russia)			担当教員名： 新井 洋史 Hirofumi Arai
選択必修： 選択 Elective	単位数： 2	セメスター： 1 後 1 Fall	開講言語： 日本語

ディプロマポリシーとの関連：

国際社会の知識	政策分析能力	英語コミュニケーション能力
●	●	

○授業の到達目標及びテーマ

ロシアは世界最大の国土面積を持ち、国連安全保障理事会では常任理事国の地位を占める大国です。その大国が 2022 年 2 月に隣国ウクライナへの侵攻を開始したことは、世界に大きな衝撃を与えました。と同時に、日本にとっては最も近い隣国であり、好むと好まざるとに関わらず、無視できない存在です。

にもかかわらず、我が国においてロシアという国を知ろうとする関心は高いとはいえ、ともすると「ロシア＝悪」といった先入観に基づいた理解が独り歩きしがちです。東アジアの隣国同士である日本とロシアの関係が破綻することを避け、安定した関係を築くためには、相手国の良い面・悪い面を十分に理解する人材が双方に必要です。

そこで本授業では、ロシアを相対化して客観的に観察する目を持つこと、及び、現代ロシアの政治、外交、安全保障、経済、社会についての学術的に裏付けのある知見を得ることを目標とします。

○授業の概要

本授業では、1991 年の成立以降、30 年強の歴史を持つ現代の「ロシア連邦」を対象とします。

成立当初の新生ロシアは、国際社会においてはそれまで存在していた旧ソ連を継承する立場でありつつ、国内では旧ソ連型のシステムと決別して市場経済への移行や政治の民主化といった急進的な改革を進めるという難しい課題に取り組みました。理想の国を作ろうとする希望を持って進められた改革の多くは、国内外の現実との妥協というプロセスを通じて、停滞や方針転換、後退を余儀なくされました。

その結果、足元では、終わったはずの「東西冷戦」の再来が論じられるような状態になってしまっています。とは言え、2024 年現在のロシア連邦は、1991 年までのソ連とは全く異なる国であることも確かです。ロシア国民は何を目指し、何が実現できて、何が実現できなかったのか。何故、多くの人が期待した姿を実現できなかったのか。こうした問題意識を持ちつつ、ロシアの政治、外交、安全保障、経済、社会の各側面を捉えていきます。

本授業は、学生からの報告を交えて進める予定ですが、報告のテーマや回数等については、受講生の興味関心や人数などを踏まえて、柔軟に対応する予定です。

○授業計画

第 1 回 オリエンテーション

受講生の興味関心事項などを確認しながら、以下の授業計画を肉付けしていきます。そのプロセスの中で、授業計画を変更することもあります。

第 2 回 ロシアの社会

国土や地理、歴史、宗教、民族、言語などに着目して、ロシアの巨大さと多様性について紹介して

いきます。

第3回 ロシアの政治制度

今や権威主義国家の代表格ともされるロシアには、実は「民主的な政治制度」が整備されているという、ロシア国外の人々にとっては意外に感じられる事実を確認します。

第4回 計画経済から市場経済への制度移行

新生ロシア成立時に、新たな政権は共産主義と親和性が高い計画経済の限界を認識し、資本主義・市場経済への急速な移行を進めた。ロシアが行った様々な制度改革とその帰結を紹介します。

第5回 ロシア経済のパフォーマンス

市場経済移行初期の混乱を経て、2000年代の油価高騰の中で急成長を遂げたものの、その後は輝きを失ってしまったロシア経済の動向を追います。

第6回 対外経済関係の深化と構造変化

グローバル化が進む世界経済の中で、一時は新興国経済 BRICS の一角として世界的な注目を浴びるなど、対外経済関係を深めていった時期があったのち、西側諸国による経済制裁を受けて貿易構造に変化が生じてきているという状況を確認します。

第7回 プーチン政権下のロシア

初代大統領エリツィン氏の指名を受けて、2000年に大統領に就任したプーチン氏は事実上20年以上にわたり政権を維持しています。この政権に働く様々な力学を考察していきます。

第8回 ロシアの安全保障観

ロシアは、西側諸国に潜在的脅威を感じつつ、旧ソ連諸国などを「勢力圏」とみなして影響力を及ぼすことで、自国の安全保障を確保しようとしているといわれます。

第9回 ロシアと旧ソ連諸国の関係

一口に旧ソ連諸国と言ってもそこには多様な国々が存在しています。各国各様の対ロシア関係を概観します。

第10回 ロシアと西側諸国の関係

現在のロシアと西側諸国の関係は過去30年間で最悪の状態にあります。なぜ、このようなことになってしまったのか。その契機や理由を探ってみたいと思います。

第11回 エネルギー大国・ロシア

世界最大級のエネルギー資源輸出国であるロシアは、エネルギー資源を外交上の武器として使っているとされてきました。他方で、西側諸国は、ロシア経済のエネルギー依存を弱点と見て、対ロ

シア制裁を実施しています。

第12回 ロシアの中央・地方関係

広大な国土を持つロシアは連邦制を取りつつも、中央集権的な性格を強く持っています。こうした面からも、ロシアという国では建前と実態が乖離していることが確認できます。

第13回 極東開発政策とアジア太平洋戦略

西側との関係が悪化する中で、ロシアはアジアシフトを強めているように見えますが、実は東方への思い入れは長い歴史を持っています。

第14回 日ロ関係

日ロ間には、北方領土問題をはじめとする政治・外交面での高い壁がありますが、そのことだけが二国間関係を規定しているわけではなく、相対化して考える必要があります。

第15回 総括：ロシアをどう見るか

プロパガンダに惑わされずにロシアの実像を見るためにはどうすればよいか。講師自身も悩む難しい課題ですが、受講生の皆さんと一緒に考えたいと思います。

○テキスト

初回授業において、いくつかの図書を提示して、いずれかを教科書として採用するかどうかを決定します。これとは別に、特定のテーマについての学術論文などの文献を用いることもあります。

日本語または英語の文献を用いるため、ロシア語能力は必要ありません。

○参考書・参考資料等

同上

○学生に対する評価

授業への参加態度 20%、授業中の発表 40%、期末レポート 40%

○オンライン授業に切り替えた場合の授業形態

授業形態 : オンライン授業（リアルタイム配信型）